

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	3	学校名	長良高等学校
------	---	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	「開拓者」として広い視野と高い志をもってチャレンジし続けるとともに、様々な他者と協働し、未来を切り拓くことができる生徒を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	《知育》 自ら考え、行動できるとともに、多角的な視点で物事を捉えて、よりよい問題解決を目指すことができる生徒 《徳育》 多様性の中で礼節をわきまえ、人とのつながりを大切に、自らの役割と責任を果たすことができる生徒 《体育》 夢や希望を持って挑戦し続け、未来を切り拓くことができる健康な心身を持つ生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒一人一人の自己実現に向けて、基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力を育成するための質の高い授業の創造と個々に応じたきめ細やかな指導の実施</li> <li>・ 探究的な学びによる「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育むとともに、グローバル化に対応するコミュニケーション能力（使える英語）や国際的素養を身につけるための教育を推進</li> <li>・ 人間力の育成を目指した学業と部活動等の両立の推進を通して、知・徳・体のバランスのとれた指導を実施</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学進学を目指し、主体的に学び、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒</li> <li>・ 多様性を尊重し、他者と協働しながらよりよい学校や社会を築いていこうとする意欲のある生徒</li> <li>・ 文武において切磋琢磨し自己を高め、有為なリーダーを目指そうとする意欲のある生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	学校制服の今後の在り方について、生徒の意向を踏まえ多様性に対応する取り組みをする。 生徒のニーズを踏まえた部活動と学習活動の在り方を考え、改善する。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習習慣の確立と学力向上</li> <li>・ 学習意欲の喚起と明確な進学目標の設定</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の進路目標の実現に向けた指導体制の充実</li> <li>・ 国内外の大学等や地域との連携充実による学びの推進</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育、情報モラル教育の推進</li> <li>・ 基本的な生活習慣の確立</li> </ul>
	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文武両道の推進</li> <li>・ 協働的な学びの充実</li> </ul>

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	①基礎的な知識・技能を確実に定着させるため、ICTを活用した授業研究をする。	9	施策Ⅱ-9	授業中に、ICTを活用して指導できる教員の割合。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼすべての教員がICTを活用した授業を実施し、効果的な方法を研究した。</li> <li>・生徒による授業アンケートを1回実施した。</li> <li>・補習の満足度を測るアンケートを実施した。</li> <li>・生徒に対して英語検定受験募集を周知した。</li> <li>・英語検定合格に向けた内容の補習を実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員によるICT活用授業の実践は十分だが、今後は生徒の活用が望まれる。</li> <li>・今年度は授業アンケート実施が1回であったため、2回実施できるようにする。</li> <li>・88%の生徒が授業や補習に満足していると回答した。</li> <li>・約80%の生徒が、英語検定受験に挑戦した。</li> </ul>	B
	②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。	26	施策Ⅳ-26	生徒による授業アンケート2回実施による比較。				
	③進学習目標実現に向けて放課後補習や土曜講座、補習等を効果的に実施する。	8	施策Ⅱ-8	生徒アンケートの補習等に満足する生徒の割合。				
	④グローバル化に対応するコミュニケーション能力等を身に着ける教育を実施する。	11	施策Ⅱ-11	英語検定等に挑戦する生徒の割合。				
進路指導	①個別面談や大学見学会を実施し、早期から進路目標の明確化を促す。	13	施策Ⅱ-13	現役国公立大学合格者数。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談を実施し、個々の目標を明確化した。</li> <li>・それぞれの目標達成に向けて助言した。</li> <li>・進路実績のある高校を見学し、職員に共有した。</li> <li>・志望理由書、小論文の書き方について、講座を開講した。</li> <li>・探究活動で岐阜市内を探索した。</li> <li>・探究の方法について講演会を開いた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に応じた指導をすることで、進路目標の実現に結び付けた。</li> <li>・小論・面接指導に対する教員の意識を高め、的確な指導、助言につながった。</li> <li>・地元を探索することで、自分たちの住む町の課題に気づき、その解決策を考察した。</li> </ul>	B
	②教員の指導力向上のための研修会を実施し、全職員による進路指導体制を促進する。	26	施策Ⅳ-26	協働的な職場環境の定着度				
	③探究的な学びを通して「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育む。	4	施策Ⅰ-4	自分の住む地域の魅力を伝えることができる生徒の割合。				
生徒指導	①命の教育や情報モラル教育を充実させ、多様性の中で互いの人格を尊重する心を育む。	1	施策Ⅰ-1	講演会の実施およびアンケート結果で理解した生徒の割合。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育講演会を1年生、2年生対象に実施した。</li> <li>・いじめアンケートを年3回、心のアンケートを年4回実施した。</li> <li>・MSリーダーズによる挨拶運動、交通安全運動を実施した。</li> <li>・PTA役員による挨拶運動をおこなった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の内容理解は得られたが、違反行為はなくなる。継続して注意喚起する必要がある。</li> <li>・いじめアンケートや心のアンケートから、トラブルの早期発見につながった。</li> <li>・MSリーダーズの活動が少なかった。今後は自転車ヘルメット着用なども呼びかけるなど活動を増やす。</li> </ul>	B
	②心のサインに気づき、素早的確に対応できる教育相談体制を拡充する。	3	施策Ⅰ-3	「いじめアンケート」および「心のアンケート」の件数と対応状況。				
	③学校生活のあらゆる場面で「凡事徹底」を合言葉に、基本的な生活習慣の確立を図る。	7	施策Ⅰ-7	挨拶、身だしなみ、環境整備等について、生徒および保護者アンケートで良いと答えた数。				
特別活動	①部活動への積極的な参加を促し、目標を掲げやり抜く力を身に着ける。	16	施策Ⅲ-16	部活動加入率85%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に対して部活動紹介を実施し、積極的な参加を呼びかけた。</li> <li>・集会等で部活動の伝達表彰や上位大会出場者の壮行会をおこなった。</li> <li>・生徒会が中心となって体育祭、文化祭を運営した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率は88.3%で、多くの生徒が部活動に参加し、活躍した。</li> <li>・多くの生徒が全国大会出場を果たした。陸上部、放送部、演劇部</li> <li>・体育祭、文化祭についてのアンケートでは、90%を超える生徒がよかったと回答した。</li> </ul>	B
	②活動を通して、成果を共有し互いに認めあい、高めあう態度を育む。	1	施策Ⅰ-1	部活動の活動実績、伝達表彰の場の設定状況。				
	③生徒会を中心に、時代に対応した学校行事を創造する中で協働性や問題解決能力を育成する。	8	施策Ⅱ-8	学校行事後のアンケート結果で評価。				

### 来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月5日

- ・生徒に対する授業アンケートのデータを元に理解度を分析し、授業改善に向けた取り組みをする期間を設け、確実に実施するよう徹底する。
- ・ICTを活用して、日々の業務がより正確かつ円滑におこなえるようにする。
- ・放課後や夏季休業中の補習の効果的な実施方法について再考し、より満足度の高い補習をおこなう。
- ・各種講話の実施について、生徒の実態を把握して最も効果的な実施時期や実施方法を考える。
- ・挨拶や身だしなみ、遅刻などの規定について、共通認識のもと職員全体で指導する。
- ・MSリーダーズによる交通安全運動や自転車ヘルメット着用の呼びかけを定期的におこない、交通安全意識の向上を促す。
- ・体育祭応援団の募集方法を含め、各行事において学習との両立を目標に活動できるよう、生徒会を交えて考える。
- ・学校活動において、従来のやり方を継続するのではなく、生徒、保護者、地域の意見を取り入れて、より学びを深める活動にしていく。

### 学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

- ・学校全体が落ち着いており、授業も熱心に受けている。今後も授業改善に向けた取り組みを継続してほしい。
- ・探究や学びを発表する機会があり、進路目標の明確化につながっている。それぞれの進路目標実現に向けて、より一層支援を強化してほしい。
- ・学校でのマナーやモラル教育は実施しているようだが、今後は遅刻指導などを徹底し、基本的な生活習慣の確立に力を入れてほしい。
- ・生徒の命を守るためにも、自転車乗車時のヘルメット着用推進に力を入れるべき。
- ・感染症対策から完全に解放され、学校行事も活発におこなわれている。保護者としても子どもたちの活躍する姿が見られてよい。
- ・学習も部活動も活発で、まさに文武両道が体現されている学校であり、今後の活躍も期待される。